青少年育成県民会議の広報紙

せっぺとべ

『せっぺとべ』とは精一杯がんばれの意味

発行／鹿児島市鴨池新町１番８号
県青少年会館内
鹿児島県青少年育成県民会議
電話 099-257-8226　FAX 099-257-8227
URL:https://www.kagoshima-seisyounen.jp
E-mail:ikuseikaigi@hkg.odn.ne.jp

「第48回少年の主張鹿児島県大会」

最優秀賞に日髙かぐやさん（屋久島町立中央中学校２年）

８月２日（日）、「第48回少年の主張鹿児島県大会」（主催：鹿児島県、鹿児島県青少年育成県民会議）を鹿児島県青少年会館大ホールで開催しました。

今年度の大会には、32校の中学校・義務教育学校から1,797点の応募があり、校内審査と県民会議の一次審査で選出された10名の皆さんが、主張発表を行いました。審査の結果、「僕の体」の題名で発表した屋久島町立中央中学校２年の日髙かぐやさんが最優秀賞に選ばれました。

（入賞者一覧を２ページに掲載）

主な内容

・若者への期待（日本ＰＴＡ九州ブロック相談役・前鹿児島県ＰＴＡ連合会会長　市園　豪さん）……2
・「第48回少年の主張鹿児島県大会」入賞者一覧……2
・令和８年度鹿児島県青少年育成県民会議総会・青少年育成県民会議表彰……3
・青少年登録承認団体の紹介及び団体の募集……4
・かごしま子ども・若者総合相談センター（ひきこもり地域支援センター）……4
・児童虐待防止推進月間広報……4
・「郷土（ふるさと）に学び・育む青少年運動」強調月間……5
・あいさつ・声かけ実践街頭キャンペーン……5
・地域の団体の紹介……6
（いちき串木野市ジュニア・リーダークラブ「チェリーブロッサム」）
（瀬戸内町ジュニアホノホシ太鼓）
・私の地域活動（白水　梨恵さん）……7
・わがまちの青少年育成（枕崎市）……8

若者への期待
「今日を生きる。」

日本ＰＴＡ九州ブロック相談役
前鹿児島県ＰＴＡ連合会会長
市　囿　　豪

若者の皆さんへ。今日という日を楽しんでいますか？

突然ですが、「人生って何だろう？」と考えたことはありますか。

世の中では、有名になることや成功することが素晴らしいと言われることがあります。スポーツ選手や芸能人、政治家や経営者など。もちろん、それも素敵な生き方です。でも、私はそれだけが人生の成功とは思いません。毎日、誰かのために働く人。家族を支える人。地域を守る人。友達を笑顔にする人。鹿児島が好きで、この場所に残って頑張る人。夢を追いかけて県外へ飛び出す人。どれも同じくらい価値のある素晴らしい人生です。

夢の大きさを比べる必要なんてありません。幸せの形も、人それぞれ違います。大切なのは、人と比べることではなく、「昨日の自分より少し前へ進めたかな」と思える毎日を積み重ねることではないでしょうか。一人ひとりが、それぞれの場所で自分らしく花を咲かせる。その花の色も、大きさも、咲く時期も違っていい。人それぞれが違うからこそ、私たちは互いに支え合い、この社会は成り立っているのではないでしょうか。

私は、若い皆さんに「こうあるべき」とは言いません。ただ、自分を信じてください。故郷を愛してください。人との出会いを大切にしてください。そして、自分らしい幸せを見つけてください。皆さん一人ひとりの歩みが、鹿児島の未来をつくり、日本の未来を育てていきます。人生は、誰かと比べるものではありません。あなたの人生は、あなたが主人公です。

今日という一日を大切にしながら、あなたらしい人生を歩み続けてください。

令和８年度「第48回少年の主張鹿児島県大会」開催

会場の様子

最優秀賞の日髙かぐやさん

入賞者　【優秀賞・優良賞は五十音順】

賞	氏名	学校名	学年	題名
最優秀賞	日髙かぐや	屋久島町立中央中学校	2	僕の体
優秀賞	久木元眞子	薩摩川内市立川内南中学校	3	不便のなかにある価値
優秀賞	友岡　美彩	鹿屋市立鹿屋中学校	2	本に触れる意味
優良賞	岩坂グエン	志布志市立志布志中学校	2	日本とベトナムのために
優良賞	大岩根羽琉	霧島市立溝辺中学校	3	一人一人の成長に寄り添える先生へ
優良賞	河本友紀世	西之表市立種子島中学校	3	言葉にできない私だけの夢
優良賞	竹添　悠晴	鹿児島大学教育学部附属中学校	2	幸せの基準
優良賞	政　優月	鹿児島市立和田中学校	3	勇気と希望を世界中に
優良賞	深澤　咲菜	枕崎市立立神中学校	3	学年の壁をこえる
優良賞	松谷　和奏	鹿屋市立高隈中学校	3	自分には何ができるのか

※　最優秀賞受賞者の日髙さんは、令和８年11月22日（日）に「独立行政法人 国立青少年教育振興機構」が開催する「第48回少年の主張全国大会」の鹿児島県代表者として推薦します。

令和８年度鹿児島県青少年育成県民会議総会、県民会議表彰

青少年育成県民会議表彰受賞者の皆様

総会の様子

「こどもの居場所づくり」についての行政説明

６月５日（金）、鹿児島県青少年育成県民会議総会を、市町村民会議や青少年団体、青少年育成団体等の関係者の出席のもと、県青少年会館で開催しました。

青少年育成県民会議では、子供・若者の問題は地域社会、大人の問題であるという認識を基本として、子供・若者が社会的に自立した個人として成長していけるよう、関係者相互に緊密な連携を図り、「郷土に学び・育む青少年運動」を積極的に推進しています。そして、総会においては青少年を取り巻く社会環境への対応や青少年育成支援の重要性を出席者一同が再認識し、それぞれの立場において、より積極的に活動することを確認しました。

また、総会の後半では県子ども福祉課による「こどもの居場所づくり」の推進事業についての説明がありました。この事業は昨年度から始められており、こどもの居場所づくりに関する関係機関協議会を設置し、フリースクール等こどもの居場所づくりに係る支援の在り方について協議が進められてきました。本年度はこどもの居場所づくりコーディネーターの配置や研修会の開催など、より具体的な取組が進められます。

なお、総会に先立ち県民会議表彰の授賞式を行い、青少年育成指導者３名、青少年育成団体３団体、青少年団体・グループ１団体、青少年育成市町村民会議１団体を表彰しました。受賞された皆様方に敬意を表するとともに、心よりお慶び申し上げます。

青少年育成県民会議表彰（３個人・５団体） 敬称略

【青少年育成指導者の部】

家村　純子（薩摩川内市）

薩摩川内市更生保護女性会会長として、子育て支援やボランティア活動、更生保護活動等に積極的に携わり、会員及び地域住民から厚い信頼を得られている。

県内から提供された本を小・中学校、幼稚園等に届ける「子供たちに本を贈る運動」や、子育て世代のストレス解消とママ友づくりに役立てるための「子育てサロン」を開設し、ひとりぼっちの子育てをさせない活動等に尽力されている。

久保園　剛（伊佐市）

平成14年から旧菱刈町の菱刈校区公民館活動推進委員会委員として、青少年の体験活動等に精力的に取り組まれ、合併後も菱刈校区コミュニティ協議会の青少年育成部会副部長として青少年の健全育成に尽力されている。

また、毎月実施されている「伊佐さわやかあいさつ運動」への参加や、「ふるさと学寮」の支援を行うなど、青少年育成に大きく貢献されている。

住岡　重寛（中種子町）

小・中・高等学校ＰＴＡ会長、単位子ども会育成会長など、様々な役員を歴任され、平成30年からは町子ども会育成連絡協議会会長として青少年育成及び子ども会組織の振興発展に尽力されている。

町子ども会主催の親子ふれあいスポーツ大会では、年齢や体力、障がいの有無に関わらず楽しめるスポーツ「ボッチャ」を導入して、インクルーシブな地域づくりにも貢献されている。

【青少年育成団体の部】

南さつま市金峰更生保護女性会（南さつま市）

昭和55年の設立時より、「青少年に母の愛を」の精神を合い言葉に、行政や関係機関団体と連携し、更生保護活動はもとより、青少年育成・非行防止・子育て支援活動を実践している。

活動は、交通安全見守りや「南さつま子どもの家」への施設訪問等のほか、社会を明るくする運動などの犯罪や非行防止活動に積極的に参加し、長年にわたり青少年の健全育成及び更生保護に大きく尽力している。

南っ子応援団放課後見守り（鹿屋市）

１町内会１小学校の地域で学童保育の施設がないという課題から、平成30年度に町内会の参加できる方々が「南っ子応援団放課後見守り」として学校の図書室で放課後の子供たちの見守りを開始した。

この活動は、家に帰っても保護者が不在の子どもたちの安全と心の居場所を確保するため、地域住民が交代で、学習の見守りや話を聞いたりして、安心して過ごせる環境を提供し、子どもたちの心身の成長を支えている。

安城カシミアクラブ（西之表市）

地域の児童生徒及び在郷青少年に郷土への愛着と誇りを持たせ、心身ともに健全に育成するために平成29年に設立された。

少子化に伴い、子ども会などが担ってきた活動の維持継続が困難になってきている実態を踏まえ、「安城校区の子どもは、安城校区で育てる」のスローガンのもと地域の教育力を有効活用し、地域ぐるみで様々な青少年健全育成活動に取り組み、他の団体の模範となっている。

【青少年団体・グループの部】

ガールスカウト鹿児島県連盟第12団（鹿児島市）

昭和62年から38年間、団委員、指導者、保護者の連携のもと、スカウトの育成・支援に取り組み、ガールスカウト運動の理念に基づく団独自の活動が展開されている。

興正寺六月灯への参加、鹿児島市かんまちあ元気フェスタ、ユニセフハンドインハンド募金、かごしまマラソンボランティア等に積極的に参加するなど、指導者と育成母体、保護者が連携した活動に積極的に取り組み、各団の模範となっている。

【青少年育成市町村民会議の部】

徳之島町青少年育成町民会議（徳之島町）

昭和60年、青少年の健全育成を目的として設立されて以降、家庭・地域・関係機関が連携し、継続的な青少年育成活動に取り組んでいる。町民会議には、高校生も参画し、それぞれの立場から意見交換や情報共有を行うなど、地域ぐるみの協議・実践を重ねている。特に、令和４年度からは高校生の意見を反映させることを目的に「高校生委員」を配置し、若者の主体的な参画を促進する先進的な取組を実践している。

青少年登録承認団体紹介及び団体の募集

青少年会館では、青少年の団体活動を支援する取組として、青少年登録承認団体制度を設けており、現在19の団体が登録しています。登録を希望される場合は、ご相談ください。（☎099－257－8226）

鹿児島大学ジャンベリー

鹿児島大学公認音楽系ボランティアサークルのジャンベリーです。
主な活動として、様々なイベントや施設に出向いて演奏をしています。鹿児島県三島村などで有名な西アフリカの楽器である「ジャンベ」を叩いて演奏します。曲自体も歌あり！ダンスあり！と盛り上がる曲になっているので、ぜひ出演イベントを見に来てください！
少しでも興味がある！という人はインスタを開設しているので、お気軽にお問い合わせください！
Instagram ID：kagoshimadaigaku_djembelly
（鹿児島大学 Djembelly）

青少年登録承認団体受付

青少年会館では、青少年登録承認団体の受付を随時行っています。登録承認されますと、利用料金は全額免除となります。

（登録承認条件）
1　県内に居住する青少年又は青少年団体であり、健全な活動を図ることが目的であること。
2　会員の平均年齢が35歳未満の団体であること。
3　５人以上の構成団体であること。また、会館を利用する場合、必ず５人以上であること。

（必要提出書類）
○様式１（団体登録申請書）
○様式２（団体規約）
○様式３（会員名簿）
○様式４（前年度活動実績）
※　申請書等は、会館事務所にあります。また、ホームページからもダウンロードできます。

子ども・若者総合相談センター巡回相談会

かごしま子ども・若者総合相談センターでは、不登校、ひきこもり、ヤングケアラー等、様々な悩みを抱える子どもや若者本人、その家族を対象とした相談会を県内各地で行っています。ひとりで抱え込まないで、まずはご相談ください。

【10月以降の相談会の開催予定】
10月８日（木）西之表市　10月13日（火）・14日（水）知名町
11月11日（水）出水市　11月19日（木）伊佐市
12月９日（水）屋久島町　12月16日（水）さつま町
１月19日（火）奄美市

相談を希望される方は、当センターへ事前にお申し込みください。（TEL 099-257-8230）※ホームページもあります。

11月は児童虐待防止推進月間　～地域社会全体で取り組み、解決すべき問題です～

国や県では毎年11月を「児童虐待防止推進月間」と位置づけ、社会的関心の喚起を図るために、集中的な広報・啓発活動を行っています。
児童虐待は、子どもの生命に危険を及ぼすだけでなく、心にも深い傷を残すことになります。児童虐待は、地域全体で取り組むことで、発生予防や早期発見につながります。
あなたの周りに「気になる子ども」はいませんか？「もしかしたら」と感じたら、すぐに、市町村の子ども家庭相談窓口や、県の児童相談所などに連絡してください。あなたの一報で救われる子どももいます。

児童虐待とは
○　身体的虐待　○　性的虐待
○　ネグレクト　○　心理的虐待

虐待防止の５ヶ条
①　おかしいと感じたら迷わず連絡（通告）　…　通告は義務＝権利
②　「しつけのつもり…」は言い訳　…　子どもの立場で判断
③　ひとりで抱え込まない　…　あなたにできることから即実行
④　親の立場より子どもの立場　…　子どもの命が最優先
⑤　虐待はあなたの周りでも起こりうる　…　特別なことではない

（参考：厚生労働省ＨＰ）

11月は「郷土に学び・育む青少年運動」強調月間です!!

【運動の基本的な進め方】

青少年育成は家庭が基本であるという認識のもとに、鹿児島の教育的伝統と風土を生かしながら、家庭、学校、職場、地域、関係機関・団体が、それぞれの実情に応じた取組を、独自に、又は相互に連携して実施しましょう。

市町村及び青少年育成市町村民会議は、青少年育成コーディネーターを中心に、具体的な実施計画等を作成するとともに、市町村民会議の機能を強化し、市町村民総ぐるみで本運動が展開できるように効果的な推進を図りましょう。

校区青少年育成組織等は、青少年育成推進員を中心に、学校、ＰＴＡ、警察、青少年育成団体、自治公民館、高齢者団体、地域女性団体、ＮＰＯ団体、ボランティア団体等と緊密な連携を図り、本運動の周知を図るとともに、校区が一体となった青少年育成活動を推進しましょう。

家庭は、「早寝早起き朝ごはん」運動の実践など、基本的な生活習慣の育成に努めるとともに、**「家庭の日」（毎月第３日曜日）、「育児の日」（毎月 19 日）**を中心に、家族の語り合いや、親子のふれあいを実践しましょう。

学校は、地域が育む「かごしまの教育」県民週間等を通して、地域の方々が「かごしまの教育」や「青少年の健全育成」について一層の周知を図りましょう。

職場は、勤労青少年に働く喜びを与える職場づくりに努めるとともに、「家庭の日」、「育児の日」の子どもへの関わりや「青少年育成の日」等に行われる青少年育成活動への参加を奨励・支援しましょう。

地域は、**「青少年育成の日」（毎月第３土曜日）**を中心に、かごしま地域塾や子ども会活動など地域の特性を生かした青少年育成活動を支援・実施しましょう。

関係機関・団体等は、情報収集や情報提供に努め、地域ぐるみで青少年を育む気運を盛り上げ、活発な青少年育成活動が展開されるよう運動の推進を図りましょう。

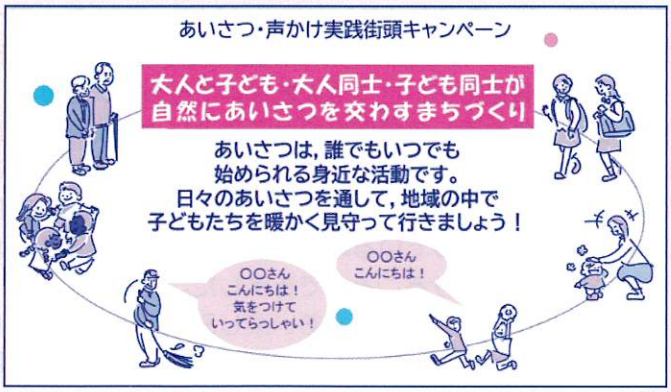
～春の「郷土に学び・育む青少年運動」～

あいさつ・声かけ実践街頭キャンペーンを実施

春の「郷土に学び・育む青少年運動」の一つとして、３月15日（日）、あいさつ・声かけ実践街頭キャンペーン（主催：鹿児島県、鹿児島県青少年育成県民会議）を中町ベルク通りで開催しました。

あいさつ・声かけ実践街頭キャンペーンは、毎年３月に子どもたちが大人に対してあいさつや声かけの実践を呼びかけることによって、多くの大人が青少年育成活動への参画意欲を高め、地域教育力の向上の一翼を担っていただくことを期待して実施しています。

今回は、ガールスカウト鹿児島県連盟や日本ボーイカウト鹿児島県連盟、薩摩海洋少年団の子どもたちの協力を得て、あいさつ実践のためのチラシ等を行き交う方々に手渡しながら、地域の子どもたちへのあいさつや声かけを呼びかけました。



地域の団体の紹介

いちき串木野市ジュニア・リーダークラブ「チェリーブロッサム」

公民館レクリエーション活動

卒業研修「カルタレクリエーション」

活動をとおして将来を担う子どもたちを育成

いちき串木野市ジュニア・リーダークラブ「チェリーブロッサム」は、今年度中学生13名、高校生15名の計28名で活動しています。市教育委員会主催事業等のボランティアスタッフとしての活動をはじめ、子ども会へ出向いてレクリエーション活動の支援を行うなど、地域の子どもたちと交流を深めています。

毎年３月に実施する卒業研修では、卒業を迎える高校３年生による、活動の企画・運営を行っています。施設との打合せから研修内容の検討までを自ら行い、自分たちの考えを形にしながら活動を作りあげています。参加者として楽しむ立場から、参加者を楽しませる立場を経験することで、主体性や責任感、企画運営能力を養い、将来の社会生活に役立つ貴重な経験を積んでいます。

また、さまざまなイベントの運営補助や、九州地区・全国ジュニア・リーダー研修会への参加をとおして、知識や技術の向上に努めています。研修で学んだ内容は会員同士で共有し、イン・リーダー、ジュニア・リーダー宿泊研修などの活動に活かしています。

今後も、子どもたちの良きリーダーとして活動するとともに、地域社会に貢献し、将来のいちき串木野市を担う人材の育成を目指して楽しく活動していきます。

ジュニアホノホシ太鼓（瀬戸内町）

奄美シーカヤック大会のスタート時に
応援太鼓として大会を盛り上げる

子ども文化祭のオープニングに出演

瀬戸内町　～ジュニアホノホシ太鼓結成から～

母体となる瀬戸内町ホノホシ太鼓は昭和59年に当時の瀬戸内町連合青年団が中心となって、「青年団から町を盛り上げていこう」を合い言葉に、結成したのがホノホシ太鼓です。

ホノホシ太鼓は、瀬戸内町の太平洋に面する景勝地「ホノホシ海岸」に打ち寄せる波と玉石の音を和太鼓で表現した創作太鼓です。太平洋に面したホノホシ海岸の雄叫びをあげるすさまじい風の音、岩間に砕ける波の音、その波にもてあそばれる“玉石”そして、十五夜の夜に繰り広げられる八月踊りと、奄美特有のリズムである軽快な六調の調べを、大太鼓、中太鼓、小太鼓、３種類の太鼓と三味線で表現しております。

平成８年４月に、ホノホシ太鼓の継承を目的にジュニアホノホシ太鼓ははじまり、今年で30年が経ちました。ジュニアホノホシ太鼓の結成当時から町内の児童生徒で、当時は50名程で結成していましたが、令和８年度現在、ジュニアホノホシ太鼓のメンバーは15名となっています。ジュニアホノホシ太鼓結成時から、「礼に始まり礼に終わる」をモットーに、最初と最後のあいさつは大きな声で行っています。

また、子供たちが太鼓を通して自信をつけることにより、学校や家庭に戻ったとき、いろんなことで影響してくれればと感じているところです。ジュニアホノホシ太鼓が、各種イベント等に出演することにより、元気をもらい笑顔になっている地域の皆さんの姿を見ることが多く、それを支えに今まで続けることができました。

これからも、多くの子どもたちとふれあい楽しみながら、又、厳しく指導していけたら今後も続けていけると確信しています。まずは「50年を目標に……！」

霧島市
一般社団法人 横川kito
代表理事　白水　梨恵さん

私の地域活動

持続可能な運営体制を築き、次代を担う人材の育成

霧島市横川町は、歴史的な町並みや豊かな自然資源が残り、地元の方々にとっては当たり前のものが移住者や地域外の人にとっては魅力になるような地域資源が多い所です。また、ＪＲ肥薩線・大隅横川駅など、鉄道資源も残る地域で多くの方々から親しまれています。

今回は、横川kitoの代表理事を務め、横川町の町づくり事業をはじめ、中高校生のキャリア教育支援などを行っておられる白水梨恵さんの活動を御紹介いたします。

ユースセンター主催イベントでの集合写真

一般社団法人 横川kitoの設立

2020年末に霧島市国分から横川町へ移住し、同時に一般社団法人横川kitoを設立しました。横川町を中心とした肥薩線沿線地域のまちづくり事業を行う会社として、空き家を活用したゲストハウスの運営、国登録有形文化財「池田家 母屋」を再生したカフェ・地域拠点の運営、霧島・湧水ユースセンター「yukusu」での中高生のキャリア教育支援などを行っています。

設立当初はカフェとゲストハウスの運営が主でしたが、年々求められる役割ややりたいこと・できる事も増えていき、現在は飲食・宿泊・食品製造・コンサルティング事業・地域事業の５事業を運営しています。

子どもたちに自分の一歩を踏み出せる居場所をつくりたい

横川の豊かな自然や地域住民の方々の温かさに惹かれて移住し、約５年間、３人の子どもを育てながら暮らす中で、市街地と過疎地で「挑戦できる機会」の差があることに気付きました。習い事をしたくても片道車で30分以上通わないといけない環境があり、家庭によってできる・できないが変わってきます。公共交通の便も少ないため、子どもだけでの移動も困難です。コミュニティの狭さなどの問題もあり、本音を話せない子が多いです。人間力を形成する思春期の子どもたちが学校でも家でもない場所で「やってみたい」に出会い、フラットに多世代・多様な人々と交流しながら、自分の一歩を踏み出せる居場所をつくりたいと考えたことがきっかけです。

スタッフとユースセンター利用者の交流の様子

「yukusu 経営学部」でのマルシェ出店の様子

「やってみたい」に出会う・踏み出す環境づくり

霧島・湧水ユースセンター「yukusu」の日常運営（10代の居場所づくり）、地域の担い手育成を目的とした「地域プロデューサー実践講座」（県委託事業）、肥薩線沿線を舞台にした中高生向けアート体験プログラム、地域内の団体や行政と連携した各種人材育成プログラムの企画運営などの青少年育成事業を行っています。

暮らす環境や個性に関わらず、自ら手を伸ばせばチャンスをつかめる基盤のある地域をつくること、多様な背景を持つ人が違いをそのままに同じ場に関わり、対話を通じて理解し合えることを大切にして、小さな成功や失敗を繰り返しながら進めています。

中高校生主体の「yukusu経営学部」の取組

ユースセンターの活動の一つ「yukusu経営学部」では、中高生たちが自分たちで運営するお店でマルシェやイベント出店しています。原価計算・売上目標・粗利などを全て自分たちで計算し、次回出店の計画を立て、生み出した利益はユースセンターでの自分たちの探求活動の原資として活用します。自分たちの頑張りや工夫の結果が、お客様の反応や数字として表れていくことにとてもやりがいを感じている子が多く、「なら、つぎはもっとこうしてみよう」というアイディアが自然と生まれています。

このような活動を通して、家庭環境や住んでいる場所に関係なく挑戦の入口に触れ、多様な人と関わりながら、自分なりの考えや軸を育てていって欲しいです。

「yukusu 経営学部」の会議風景

わがまちの青少年育成 枕崎市

～地域とともに育む 郷土愛と学び～

わがまちの青少年育成
枕崎市

枕崎市は、豊かな海やかつお節産業などの地域文化に育まれたまちです。本市では、地域・家庭・学校・関係団体が連携しながら、郷土を愛し、地域に誇りをもつ子どもの育成に取り組んでいます。体験活動や地域行事、世代間交流などを通して、子どもたちが人とのつながりや学ぶことの大切さを実感できる活動を進めています。

イン・リーダー研修会

【子ども会活動を支えるリーダー育成】

子ども会活動の充実と地域における子どもの健全育成を目的に、「子ども会新育成会長及びイン・リーダー研修会」を開催しています。研修会では、ＫＹＴ（危険予知トレーニング）やジュニア・リーダーによるレクリエーション活動などを通して、交流を深めながら、楽しく学びました。子どもの数の減少など課題もありますが、地域で子どもを育てる意識を大切にしながら、今後も子ども会活動の活性化と次代を担うリーダーの育成に取り組んでいきます。

【学びを地域につなぐ生涯学習フェスティバル】

市民一人一人の学びを地域づくりにつなげることを目的に、「枕崎市生涯学習フェスティバル」を開催しています。会場では、社会教育に尽力された方々への表彰、体験活動発表、作品展示などが行われ、多くの市民が学びに触れる機会となりました。講演やステージ発表では、子どもから大人まで笑顔が広がり、学ぶことや挑戦することの大切さを改めて感じる一日となりました。今後も、世代を超えた交流と学びを通して、地域に根ざした人づくりを進めていきます。

生涯学習フェスティバル

「勉学の道」歩こう会

【郷土の歴史に学ぶ「勉学の道」歩こう会】

桜山地区公民館では、「小原國芳先生『勉学の道』歩こう会」を開催しています。この活動は、玉川学園創立者である故小原國芳先生が、幼少期に通学した道を実際に歩くことで、郷土の先人の生き方を体感する取組です。当日は、小・中学生や保護者など約80人が参加し、仲間と励まし合いながら約12キロの道のりを歩きました。参加者は、地域の歴史や自然に触れながら、努力を積み重ねることの大切さや、ふるさと枕崎への愛着を深めていました。

毎月第３土曜日は
「青少年育成の日」

地域活動に一緒に参加しましょう。

毎月第３日曜日は
「家庭の日」

家族を互いに思いやりましょう。

毎月19日は
「育児の日」

子育てを地域で応援しましょう。